

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団  
2017年度（前期）指定公募  
「在宅医療推進のための学会等への共催」完了報告書

「健康生きがい学会第8回大会

全世代が健康でいきいきと暮らせる基盤づくり」

【学会名】 健康生きがい学会

【申請名】 川延 宗之

【提出年月日】 平成29年11月16日

## 1. 実施概要

申請者等は健康生きがい学会第8回大会において、貴財団からの助成を受け、共催として、下記のプログラムにて実施した。

大会には約150名の参加があり、盛会のうちに終了した。

- (1) 大会名称：健康生きがい学会第8回大会
- (2) 大会テーマ：全世代が健康でいきいきと暮らせる基盤づくり
- (3) 開催日時 平成29年10月8日（日） 9：30～17：40
- (4) 開催会場 臨床福祉専門学校  
東京都江東区塩浜 2-22-10
- (5) 主催 健康生きがい学会
- (6) 共催 公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団  
公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団
- (7) 参加者数 約150名
- (8) プログラム
  - ①基調講演  
テーマ：「健康でいきいきと暮らす地域共生社会を目指して」  
講師：本後 健（厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室長）
  - ②特別記念講演  
テーマ：「健康生きがいを支援する人材育成への挑戦」  
講師：潮谷 義子（元日本社会事業大学理事長）
  - ③分科会（第1部）
    - (第1分科会) 在宅医療と専門職の役割  
座長：新田 國夫（医療法人社団つくし会理事長）  
パネリスト：高口 光子（介護老人保健施設「星のしずく」看介護部長）  
中野 智紀（北葛北部医師会在宅医療連携拠点菜のはな室長）  
山下 巖（医療法人法山会山下診療所自由が丘・大塚理事長）
    - (第2分科会) ロボットの活用  
座長兼パネリスト：和田 一義（首都大学東京システムデザイン研究科准教授）  
パネリスト：久野 孝稔（湘南ロボケアセンター株式会社代表取締役社長）  
田久保 秀樹（社会福祉法人横浜市福祉サービス協会特別養護老人ホーム新鶴見ホーム課長補佐）
    - (第3分科会) 障害者の生きがい支援  
座長：小林 繁（明治大学教授）  
パネリスト：玉井 七恵（認定NPO法人ぱれっと工房ぱれっと支援員）  
中條 尚子（NPO法人Pippi 理事）

平井 威 (明星大学特任教授)

(第4分科会) 高齢者の生きがい支援

座長兼パネリスト：石川 治江 (社会福祉法人にんじんの会理事長  
特定非営利活動法人ケア・センターやわらぎ代表理事  
立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科客員教授)

パネリスト：城戸 ユリ子 (フリーエディター・ライター)

山登 一輝 (一般財団法人長寿社会開発センター)

分科会 (第2部)

(第5分科会) 高齢期だからできる役立ち

座長兼パネリスト：渡邊 一雄 (日本フィランソロピー研究所所長)

パネリスト：大下 勝巳 (NPO法人かわさき創造プロジェクト理事)

勝田 高之 (はじめの一步の会副会長)

(第6分科会) 子ども・若者の生きがい支援

座長：川原 健太郎 (早稲田大学教育・総合科学学術院助教)

パネリスト：浦田 愛 (社会福祉法人文京区社会福祉協議会地域福祉  
コーディネーター)

村石 早紀 (公益財団法人よこはまユース横浜市青少年育成センター  
元職員)

矢野 善教 (渋谷区教育センター若者サポート事業担当  
スクールソーシャルワーカー)

(第7分科会) 健康生きがい活動 (自由発表)

座長：白井 幸久 (群馬医療福祉大学短期大学部教授)

発表者：國松 善次 (一般社団法人健康・福祉総研理事長、健康生きがいづくり  
アドバイザー)

橋元 慶男 (三重産業保健総合支援センター 臨床心理士  
精神保健福祉士)

④特別対談 「健康生きがい活動を語る」

京極 高宣 (健康生きがい学会会長) VS 小林 光俊 (敬心学園理事長)

(9) 第1分科会の内容 (パネリスト・レジメより)

テーマ：「在宅医療と専門職の役割」

①高口 光子 介護老人保健施設「星のしずく」看介護部長

「介護施設で死ぬということ」

施設に入所されるお年寄りには、地域・家庭から来られる。

地域・家庭というのは、積み上げた時間・空間・仲間 (人間関係) である。

これを私たちは、「今まで通りの生活」と呼ぶ。

「今まで通りの生活」が、老い・病いが理由で続けられなくなった時、家族は、今まで通りの生活から、親を抜くという判断で、今まで通りの生活を守ろうとする。この判断が、行為となる時、子どもたちには、社会的体裁も含め「親を捨てた」という内罰感が生まれ、お年寄りは、「子どもたちのために、施設に入る」という諦めで、自分を納得させる。

その後、職員たちは、「どうしたら喜んでくれるのか、笑ってくれるのか」と、そのお年寄りのための物を準備し、その人のために勉強し、練習し、何度も話し合い、「やってみなければわからない」と、チームを持って、食事・排泄・入浴を繰り返す。

何度も失敗して、なお、「食べてくれた！」「トイレに行ってくれた！」「喜んでくれた！」という、両者のよき体験が、人としての良い関係を育んでいく。

その人の「食事・排泄・入浴がうれしい」ということは、その人が「生きていてくれてうれしい」ということである。

それは、お年寄りにとって「ここ（施設）には、私の食事・排泄・入浴がある」ということ。このように、あるがままの自分で生きていく方法があると実感するたびに、職員という自分以外の人がいることをお年寄りは体験する。

「あなたは一人ではない」この一点を現場の職員は自身の存在を持って、意識や言語を越えた体験としてお年寄りに伝える。

生きていく方法があつてなお、一人ではない、ということとは、生きていける、生きていっても良いんだ、という生の肯定感へとつながる。生きていても死んでいてもどうでも良いと思っていたお年寄りが、もう一度、自分らしく生きていこうと、主体を取り戻していく。

この時、家族は、「私たちは親を捨てたのではなく、介護を選んだんだ！」と、とらえることができる。そして、お年寄りは年月と共に、弱っていく。

捨てられたところで、人は死ねない。子供が選んだ介護の中で、親を見届けるという選択が病院ではなく、施設の看取りとなる。

病院は、今、出会った命を見届けることができる。

施設は、今日、出会った命を見届けることはできない。

日常を通じて、積み上げてきたお年寄りと職員の関係の中で、一人の人生を見届けていく。

病名で死ぬのではなく、たった一つの固有名詞で、私たちは見送っていく。

この時、求められる医療は、命の自然を傷めない医療である。

②中野 智紀 北葛北部医師会在宅医療連携拠点菜のはな室長

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス東埼玉総合病院地域糖尿病センター センター長

テーマ：地域包括ケアからケアする社会へ～幸手モデルの取り組み～

発表要旨：

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けられる社会を築くとして、現在、全国各地で地域包括ケアシステムの構築へ向けた行政を主体とした取り組みが始まっている。地域包括ケアシステムの本質とは、主として福祉領域において発展を遂げてきた「生活モデル」と呼ばれる対人支援観に適応できるヘルスケアの新しい在り方を模索する取り組みであると考えられる。従って、元来高齢者に限らずあらゆる世代と問題の種類に関わらず対象となるはずだが、制度としての地域包括ケアは介護保険上の仕組みと位置付けられており、超高齢化社会対策の安価なヘルスケアシステムとして誤認されている。

確かに、今日の地域包括ケアに関わる多様な議論や、短期間で多くの人々が関わるに至った事は、国主導による大規模な地域包括ケア推進政策の成果であるとも考えられる。しかし、この政策では在宅医療の推進や医療介護連携の推進など、あまりにも論点が制度的かつマクロ的であったり、各専門職団体が提唱する代理目標に対する要素換言的な議論に終始したりと、実際の地域ケアに関するミクロ的かつ本質的な議論が不足しているように思える。こうした背景から、地域包括ケアシステムの構築に関わる専門職や団体の中には、自ら新たな目的や役割を見出せずに立ちすくんでいる者も少なくない。

こうした背景の中で、埼玉県幸手市では、国策による制度としての地域包括ケアから、住民主体のまちづくりの推進、そして、これらに取り込まれる形になるヘルスケアのあるべき姿を模索する取り組みが始まっている。すなわち、本来の生活モデルに基づいた地域包括ケアの模索であり、我々はこれらをケアする社会の構築と呼んでいる。そして、ケアする社会の中心には多様な主体による協働を可能とするソーシャルワークが中核的な役割を担うことになる。

本講演では我々の取り組みを例示し、これまでの構築プロセスを「集約」「分散」「翻訳」「個別化」、そして「改変」の5段階に分けて考察する。さらに振り返りの時期に差しかかった制度としての地域包括ケアのより良い在り方、在宅医や専門医、医療介護連携を含む地域ケア実践の考え方、まちづくり、そしてソーシャルワークの潜在的な役割の大きさについて議論を深めていきたい。

③山下 巖 (医)法山会 山下診療所自由が丘・大塚理事長

テーマ：専門職の連携を支援する仕組み

発表要旨：

在宅医療の現場では、患者ごとに関わる専門職の職種やメンバーが異なっている。それらの構成員は、多くの場合所属も異なるため、多組織から派遣されたチーム編成となる。こうしたメンバー間で情報を効率的に共有するためには、ICTの活用が必要であり、ツールとしてSNS (Social Networking Service) が有用である。このSNSには

医療情報のやり取りが含まれることから、一定のセキュリティーが担保される必要があり、3省4ガイドラインと呼ばれる基準をクリアしたものを採用することが望ましい。

当院では日本エンブレース社が開発した医療介護専用 SNS「Medical Care Station (MCS)」をリリース当初から活用し、様々な場面で有用性を確認している。また、地元の豊島区医師会の中で在宅 ICT 会議というものを立ち上げ、開発者と共に現場に即した改良を加えていく場が設けられた。現在はさらに多職種連携の輪を広げ、医師会の枠を超えた「としま医介連」となり、ボトムアップで地域の医療介護連携や地域包括ケアシステムを支える受け皿となるべく活動を行っている。

栃木県医師会では基幹病院の電子カルテとクリニックとを結ぶ「とちまるネット」と医療介護連携を目的とした「どこでも連絡帳」<http://dokoren.jp/>が、縦糸と横糸のように整備されている。京都府医師会の「京あんしんネット」<http://kyo-anshin.net/>、群馬県医師会の「ぐんぐんサーチ」など、都道府県医師会レベルで医療介護連携システムが導入されている。こうした中で、「全国医療介護連携ネットワーク研究会（理事長：栃木県医師会 長島公之先生）」が作られ、各地域で検討された運用方針やセキュリティーポリシーを共有するための活動を行っている。今後も更なる利便性や安全性の向上をめざし、連携の支援を進めていくことが望まれる。

#### (10) 主催者としての感想

今大会は、健康生きがい学会の会員をはじめ、会場となった臨床福祉専門学校の学生など、約150名の方々に来ていただきました。

そして、大会テーマである「全世代が健康でいきいきと暮らせる基盤づくり」について学術的に研究を深める場を十分に提供することができたものと思っております。

特に「在宅医療と専門職の役割」をテーマとした第1分科会では、医療法人社団つくし会の新田國夫理事長が座長を務め、高口光子介護老人保健施設「星のしずく」看介護部長、中野智紀北葛北部医師会在宅医療連携拠点菜のはな室長、山下巖医療法人法山会山下診療所自由が丘・大塚理事長という、まさにこの分野におけるスペシャリストの方々にご登壇いただき、それぞれのご専門の立場から発表いただき、大いに分科会を盛り上げていただきました。

さらに「在宅医療と専門職の役割」というテーマの基で、在宅医療全般について、さらに専門職の役割について論じられた、この分科会は非常にユニークであり、それぞれの地域における在宅医療のあり方などに対する、たいへん示唆に富むコメントがたくさん出され、とても有意義な内容だったと思います。

本大会は、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成により開催しました。

心より感謝申し上げます。

## 2. 資料

- ・健康生きがい学会第8回大会プログラム

# 健康生きがい学会 第8回大会開催要項

超高齢社会を迎えたわが国で「長寿を喜びあえる社会」となるように各分野の専門家が集まり、生きがいのある人生を送るために「健康生きがい」について考える大会です。「全世代が健康でいきいきと暮らせる基盤づくり」をテーマに健康生きがいについて考えてみませんか。皆様の参加をお待ちしています。(実行委員長 川廷 宗之)

日 程	平成29年10月8日(日)9:30~17:40
場 所	臨床福祉専門学校(東京都江東区塩浜 2-22-10)
参 加 費	会員 500円、一般 500円、院生・学生無料、当日入会の会員無料
内 容	大会テーマ 「全世代が健康でいきいきと暮らせる基盤づくり」
9:30~9:40	実行委員長挨拶 川廷 宗之(健康生きがい学会理事、学校法人敬心学園職業教育研究開発センター センター長)
9:40~9:50	会 長 挨拶 京極 高宣(国立社会保障・人口問題研究所名誉所長、社会福祉法人浴風会理事長)
9:50~9:55	オリエンテーション 宮島 敏(健康生きがい学会常務理事)
9:55~10:30	基 調 講 演 「健康でいきいきと暮らす地域共生社会を目指して」 本後 健(厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室長)
10:30~11:00	特別記念講演「健康生きがいを支援する人材育成への挑戦」 潮谷 義子(元日本社会事業大学理事長)
11:05~11:25	幕間/だんだんダンス(特定非営利活動法人ケア・センターやわらぎ)
11:25~12:30	= 昼食 =
12:30~14:10	分科会(第1部)
	(第1分科会) 在宅医療と専門職の役割
	座 長:新田 國夫(医療法人社団つくし会理事長)
	パネリスト:①高口 光子(介護老人保健施設「星のしずく」看介護部長)
	②中野 智紀(北葛北部医師会在宅医療連携拠点菜のはな室長)
	③山下 巖(医療法人法山会山下診療所自由が丘・大塚理事長)
	(第2分科会) ロボットの活用
	座長兼パネリスト:和田 一義(首都大学東京システムデザイン研究科准教授)
	パネリスト:①久野 孝稔(湘南ロボケアセンター株式会社代表取締役社長)
	②田久保 秀樹(社会福祉法人横浜市福祉サービス協会特別養護老人ホーム新鶴見ホーム課長補佐)
	(第3分科会) 障害者の生きがい支援
	座 長:小林 繁(明治大学教授)
	パネリスト:①玉井 七恵(認定NPO法人ぱれっと工房ぱれっと支援員)
	②中條 尚子(NPO法人Pippi 理事)
	③平井 威(明星大学特任教授)
	(第4分科会) 高齢者の生きがい支援
	座長兼パネリスト:石川 治江(特定非営利活動法人ケア・センターやわらぎ代表理事、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科客員教授)
	パネリスト:①城戸 ユリ子(フリーエディター・ライター)
	②山登 一輝(一般財団法人長寿社会開発センター)
14:25~16:05	分科会(第2部)
	(第5分科会) 高齢期だからできる役立ち
	座長兼パネリスト:渡邊 一雄(日本フィランソロピー研究所所長)
	パネリスト:①大下 勝巳(NPO法人かわさき創造プロジェクト理事)
	②勝田 高之(はじめの一歩の会副会長)
	(第6分科会) 子ども・若者の生きがい支援
	座 長:川原 健太郎(早稲田大学教育・総合科学学術院助教)
	パネリスト:①浦田 愛(社会福祉法人文京区社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター)
	②村石 早紀(公益財団法人よこはまユース横浜市青少年育成センター 元職員)
	③矢野 善教(渋谷区教育センター若者サポート事業担当 スクールソーシャルワーカー)
	(第7分科会) 健康生きがい活動(自由発表)
	座 長:白井 幸久(群馬医療福祉大学短期大学部教授)
	発 表 者:國松 善次(一般社団法人健康・福祉総研理事長、健康生きがいづくりアドバイザー)
	橋元 慶男(三重産業保健総合支援センター 臨床心理士/精神保健福祉士)
16:20~17:20	特別対談 「健康生きがい活動を語る」 京極 高宣(健康生きがい学会会長) VS 小林 光俊(敬心学園理事長)
17:20~17:30	全体会 理事会報告
17:30~17:40	表彰 講評・学会賞表彰
17:40	閉会

主催:健康生きがい学会

共催:公益財団法人 フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

後援:公益社団法人経済同友会、一般財団法人健康・生きがい開発財団、公益財団法人さわやか福祉財団

社会福祉法人全国社会福祉協議会、公益社団法人老人保健施設協会、一般財団法人長寿社会開発センター

社会福祉法人東京都社会福祉協議会、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本医療社会福祉協会

公益社団法人日本栄養士会、公益社団法人日本介護福祉士会、公益社団法人日本看護協会

公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会、公益財団法人日本訪問看護財団

一般社団法人日本臨床心理士会、株式会社福祉新聞社

参加者数 150名

分科会 1部

第1分科会 22名

第2分科会 25名

第3分科会 19名

第4分科会 36名

分科会 2部

第5分科会 38名

第6分科会 25名

第7分科会 37名

当日の様子

挨拶 10:30~10:45



実行委員長挨拶  
川延 宗之 健康生きがい学会副会長  
オリエンテーション 10:45~10:50



会長挨拶  
京極 高宣会長



官島 敏 常務理事



**基調講演 9:55~10:30**

「健康でいきいき暮らす地域共生社会を目指して」

本後 健 (厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室長)



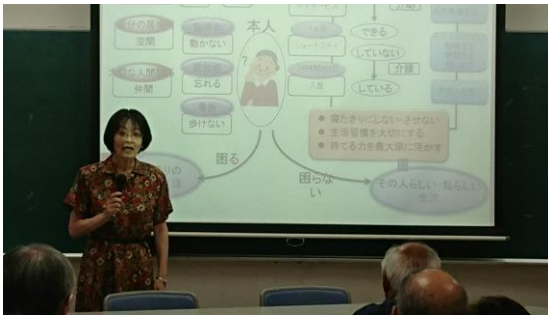
**特別記念講演 10:30~11:00**

「健康生きがいを支援する人材育成への挑戦」

潮谷 義子(元日本社会事業大学理事長)



**分科会 12:30~16:05**



(第1分科会)  
「ロボットの活用」



(第2分科会)  
「在宅医療と専門職の役割」



(第3分科会)  
「障害者の生きがい支援」



(第4分科会)  
「高齢者の生きがい支援」



(第5分科会)  
「高齢期だからできる役立ち」



(第6分科会)  
「子ども・若者の生きがい支援」



(第7分科会)  
「健康生きがい活動（自由発表）」

特別対談 「健康生きがい活動を語る」 16：20～17：20

京極 高宣 健康生きがい学会 会長

小林 光俊 敬心学園 理事長

